



娘は、探す

咲風



おじちゃんは、ゆうなちゃんのお父さんは、父よりずっと、格好よかった。背が高く、目が丸い。優しい顔、笑顔が可愛い人、という表現を、私は早い段階で学んだ。ゆうなちゃんと遊んでいる時、帰宅したおじちゃんが現れると、私は着せ替え人形を、色鉛筆を、持つ手を止める。作業着のポケットからハンカチを取り出し、汗を拭く。私は、その仕草を見届けることを楽しみにしていた。男性、という感じがする。それでも、ゆうなちゃんのお父さん、であることも忘れない。頭から、離れた時はない。扇風機は回っていても、外から帰ってくれば暑いのだろう。黒なり、紺なり、落ち着いた色合いのハンカチは娘のものとは、大違いだった。何度か畳み直してそう繰り返せば、より注視してしまう。この視線を、父と母も同席している場合、私はきちんと控えるかどうか、あり得ないことを想像することも、私の現実逃避の一つであった。

私にも、娘と同じように接してくれる。テレビやゲームの話で、盛り上げてくれる。それまでの、どの保育士より、先生より、寄り添ってくれた。それでも一向に、第一印象のおじちゃんと、リビングでくつろぐおじちゃんが、どうにも結びつかなかった。以前、ゆうなちゃんにおじちゃんはいつもあんな感じなのか、質問したことがあった。いつもあんなに面白いことを言うのか、と。ゆうなちゃんは笑って、面白いこと言うね、お父さんって普通、あんな感じじゃないの、と返す。もうすぐ、夏休みだった。下校途中の手提げ袋が、途端に重くなったことを憶えている。ゆうなちゃんは、ピアノ

カと朝顔の鉢を抱える。私より、数段辛い、はずだった。ゆうなちゃんには、計画性がない。あの優しいおじちゃんさえ、ゆうなちゃんのだらしなさを、咎めたこともあったのだろうか。けれど、アスファルトが照り返す坂道を、重い、暑い、と繰り返しながら、一步一步、進む。その条件は、ゆうなちゃんも私も、同じだった。そうしている間も、いくつも車が行きかう。スピードは落ちない。むしろ、加速しているように感じられた。我関せず。ハンドルを握る親には、同じ年頃の娘がいたかもしれない。

私は学校での自分、家での自分。どちらも、じっくりこなかった。どの自分も好きではないし、順応できていない気がした。漢字テストで満点を取っても、思いがけず、赤いスニーカーをプレゼントされても、次のテストでも同じ結果を求められ、それを履いて塾にも学校にも通うのだから、手放しで喜べなかった。クラスメイトに興味も、なかなか沸いてこなかった。陸上の地区大会やら、読書感想文が佳作やら、関心が持てない。先生に強制的に、前に出るように促され、おまけに教壇に立たされる。先生が拍手を始めたので、それに続く。先生が思いを果たせたなら、生徒は、引っ込む。その他大勢は、手を引っ込める。気持ちよく、なれているか、心配だった。家族に真っ先に報告するか、気になった。どんな瞬間も、替えが効く、と、思う。ゆうなちゃんでも、まいちゃんでもななみちゃんでも、どの娘があてがわれても、日々は回る気がしていた。

ある時、ゆうなちゃんが習い事のピアノの日、遊びに誘われた。遅くなっちゃうだろうから、別の日にしないかとやんわり断るも、急いで帰ってくるからと、譲らない。お父さんが帰ってきているから先にいて、と、続ける。最近、お父さん、が早く帰ってくるからさ、と、微笑んだ。私は、これから先も、忘れない。純粹にも寂しげにも映る、幼馴染のあの表情を。ゆうなちゃんの言葉に、自分の心に、素直に従う。後悔はしていないけれど、思いがけず、秘密はできた。ここでは黙ったままで、いつかはどこかに、打ち明けたい秘密。ただ、どちらにせよ、私が去った後、その日も親子水入らずの日常が待っていたはずだ。夕食前にお風呂を済ますことにも、おじちゃんとふたり、浸かることにも驚いた。台所では、おばちゃんが食事の準備に励む。聞き馴染みのない、鼻歌が歌われる。夫婦が出会った頃の、思い出の一節かもしれない。それなら、子供には通じなくて当然だった。

お友達も流行のアニメも、夢中にさせなくて、だからこそ、充分、動機はあった。私は、違う家族の形を知りたかった。どこにも属さない娘の居場所を、見つけたかった。

むすめ さが
娘は、探す

2023年10月28日 発行

著者 さな
咲凧

町制施行60周年・かなみ知恵の和館10周年記念事業冊子

発行 函南町教育委員会

製本 函南町教育委員会生涯学習課（函南町立図書館）

電話番号 055-979-8700

419-0122 静岡県田方郡函南町上沢107番地の1

当作品について転載・複製・複写・翻訳を著作者の許可なしに行うことを固く禁じます。

（著作権法上での例外を除く。）また、個人や家庭内の利用であっても、代行業者等の第三者に依頼して無断でスキャン及びデジタル化することはできません。

作品の著作権は著作者に帰属しますが、函南町立図書館は作品を永続的に無償で使えるものとし、主として公開にあたっての編集、印刷、配布、掲載に関すること。ただし、当館は著作者の創作性を重視し、作品内容には関与しないものとし、

幼馴染みの父親は、格好よくて「私」にも娘同然に接してくれるー。家や学校での自分がしつくりこない「私」。彼女が抱く、「ゆうなちゃんのお父さん」への思いが書かれた掌編。

